

ソーシャルワーカー ハボロネ 平成 27 年度 3 次隊

平成 27 年度 3 次隊で首都ハボロネにある NGO チャイルドラインボツワナで JOCV の 3 代目ソーシャルワーカーとして活動している神田歩です。ここでは私の活動先および活動内容とボツワナの福祉事情についてご紹介したいと思います。

【活動先紹介】

私の活動するチャイルドラインボツワナは寄付や助成金によって運営をしている NGO です。組織は 3 つの部署に分かれ①Place of Safety (保護所) ②Operation department (事務局) ③Psychological Social support department (相談部) それぞれ職員が働いています。

私の所属している相談部では月曜日から金曜日の 8:00~17:00 まで児童に関わる電話相談と面接相談、また必要に応じてアウトリーチで地域に出での相談を引き受けています。またその他にも地域の小中学校に対して児童虐待啓発のワークショップを実施したり、地元のテレビ局やラジオ局で里親についての知識を深めるための番組を放送したりしています。

そしてチャイルドラインの一番の大きな活動は保護所の運営です。ここは、日本における「児童相談所の保護所」の役割を担っており、警察や病院などで孤児を保護した場合、地域のソーシャルワーカーと協議の上、ここチャイルドラインボツワナの保護所に入所します。本来この保護所は 0 歳~5 歳程度の児童を一時的に保護するための場所として運営が始まりました。しかし、ボツワナでは児童養護施設が極端に少ないことや里親の引き受け手も多くないことから、行き先のみつかからないまま長期入所している児童が多いのも現状としてあります。そのためケースワークの強化はもちろんのこと、長期間入所している児童に対する学習支援や余暇活動にも力を入れています。



チャイルドラインのメインオフィス①

相談部のオフィスは日本外務省の草の根支援で建てられている②

【活動内容】

ボツワナにおいてソーシャルワーカーとはカウンセリングをする仕事というイメージが強いようで、活動が始まってすぐに私は個別での外来相談に一人で入ることを望まれていましたが、英語もままならない中で現地語であるツワナ語での相談を受けることが難しかったため相談部で必要だと思われる児童管理台帳作成およびデータベースの管理や行政へ提出義務のある相談統計の作成、また保護所に入所中の児童に対する学習支援やイベントの運営のサポート、またカウンセリング時の陪席など、共に働く同僚がより仕事をしやすくなるようにサポートをすることを心がけて活動しています。

私はここで活動を始めて、そろそろ1年が経とうとしていますが、手探りの毎日で、自分ができる事をやるのに精一杯で「技術移転」ということに注力することが出来てこなかったため、残りの任期では今まで自分がしてきたことを自分が離れた後にも継続してもらえるような仕組みづくりに力を入れていきたいと思っています。



イベントに参加する子どもたちに「おやくそく」を確認しているところ③

【福祉事情】

ティータイムやランチ休憩、ちょっとした雑談の中でもボツワナにおける福祉の課題について、同僚のソーシャルワーカーたちと話す機会がよくあります。その中でよく話題に上るのが HIV・エイズ、貧困そして核家族、この3つのトピックです。

<HIV・エイズ>

ボツワナは福祉・教育に力を注いでいる国で学校教育の中で HIV・エイズの啓発にも力を注いでいます。公共機関に啓発ポスターやコンドームを無償配布したり、HIV のキャリアに対しては ARV というエイズ発症予防薬の無償提供など国をあげて HIV・エイズ対策にも取り組み、エイズ死亡者は近年減少傾向ですが性に対する意識も大らかのためか性交渉による HIV 感染率はここ数年横ばいで、未だに多くの課題があります。

<貧困>

中所得国ともされるボツワナの所得格差は大きく、近隣諸国同様に若者の失業率も高いです。国全体で 18-20%と言われていますが地方はより高いと言われています。日本と同じく年金制度（毎月 310P/2016 年現在）に加えて、フードバスケットやクーポン・スマートスイッチカード（毎月 500P/2016 年現在）と呼ばれる日本の生活保護制度に似たソーシャルサービスがあるものの受

給額は微々たるもので、政府の生活保障制度だけでは満足に生活するのは難しく親族間を中心に助け合って生活を送っている印象があります。

<核家族化>

近年、首都のハボロネを中心に従来の親戚一同が同じ屋根の下で一緒に暮らすような大家族の生活スタイルから夫婦と子どもといったような核家族化が進んでいます（一番の理由は仕事を求めて働き手が地方から出て行くため）。またボツワナはシングルマザー率が大変多く、一人で子育てをしている世帯も都市部では多く見られます。そのような家庭は従来の大家族での同居と同じような手厚いサポートが受けられないことから問題を抱えやすいように思われます。

【最後に】

ボツワナに赴任してから1年が経ちました。ボツワナは日本人の多くが持っているアフリカに対するステレオタイプを崩すような発展した国です。私の同僚も多くが自家用車を持ち、スマートフォンを使い、海外旅行を経験していたり、と日本とそう大きく違いがありません。

しかし、ここに寄せられる相談内容は上記の3つの課題を孕むものがほとんどで、日本で受ける相談よりも緊急性が高く深刻なものも多く、相談に入った同僚から「歩ならどうする？」と聞かれ、困ってしまうことが毎日のようにあります。しかし、どんな時も「マタータ！（問題）」と言いながらも最後にはみんなで大声で歌を歌い、大笑いをして、抱きしめ合って「どうにかしてしまう」明るい同僚たちのおかげで楽しみながら、この国の課題解決に向けてカメのようにゆっくりとではありますが、取り組んでいます。



いつも明るく元気な同僚たちと④